

Rare sheep



Manx Loghtan

目 次

レア・シーブ研究会の発会に当たって.....	正田陽一	1
発足会レポート.....	堀内真里	2
うぶ声をあげて.....	百瀬正香	4
6部門の方向性.....	7
茶色のかわいいやつ.....	本庄義雄	9
会員の便り マンクス・ロフトンのフリースを入手して.....	10
誌上ギャラリー.....	11
発足会に出席して.....	大倉真実	12
会員の自己紹介コーナー.....	13
マンクス・ロフトンの基準と仲間に加わったマン島の羊.....	百瀬正香	14
シェアリング、クラッシング講習会報告.....	百瀬正香	16
インフォメーション.....	18

レア・シープ研究会の発会に当って

正田 陽一

レア・シープ研究会がいよいよ活動を開始することになりました。

家畜の品種問題については、かねてから強い関心を持っていたとはいえ、緬羊に関しての研究業績も飼育体験も全く皆無の私が、会長の職を勤めさせて頂くことになりました。

これは百瀬さんの熱意にほだされたためとはいえ、いささか無謀の感があります。もしも研究会の将来に不安な点があるとすれば、会長の人選を誤った点にある、と私も考えない訳ではありません。

しかし、これまで緬羊とは比較的御縁の薄かった私も、これからの日本農業にとってこの家畜種がいかなる意義を持っているか、どのような役割を果たすのか、ということに関しては、正しく認識しているつもりです。

動物生理学の面から見て乾燥地帯に棲む野生羊（ムフロン、ウリアル、アルガリ）を祖先種とする緬羊が、湿潤な海洋性気候の日本に必ずしも適した家畜でないことは言うまでもありません。また狭い国土で山勝ちな地勢は、平坦な牧野に群を放牧する形式の牧羊業に向いていないのは確かです。また土地価格が異常に高く、粗牧な農業経営が行なわれない場所で、羊毛生産のための牧羊業が成り立たないのも農業経済学の常識です。

これだけの不利な条件の重なっている我が国において、なお緬羊が農業家畜として意味を持つと私が考えるのは次の点からです。

日本の土地の植物生産力は極めて高く、これを資源として利用する家畜の存在は大切です。反芻胃を持つ中家畜として、緬羊は草を毛や肉に転換する力を具備しています。平地が少ないとはいえ、緬羊にはロンク種やブラックフェイス種のような山岳種もいます。湿度に強い品種も幾つか知られています。

肉味の佳良なことで有名なこれらの品種は、大群を飼育し経済効率の高い食肉生産をすることはできないにしても、最近の多様化した食肉需要の傾向に応え、高品質の羊肉生産を行なうのに適しています。

毛についても同様のことがいえます。工業原料としての羊毛生産ということでは、質の均一化ということが重視されますから、群管理が不可能な（地域によっては必ずしも不可能とはいえませんが……）日本が、外国と競争できないのは当然です。

しかし、羊毛は工業原料として利用されるものばかりではありません。芸術作品の素材として使われるものも、量的にはごく僅かであるとはいえ存在します。このような需要に応ずる牧羊業は日本の豊かさを支えるために、ぜひ必要であると思えますしこれを可能とする条件を具えた土地は必ずある筈です。

レア・シープ研究会がこれからどのような活動をして行くのか、私も微力ではありますが皆さんと力を併せて行きたいと思えます。 よろしくお願いします。

発足会レポート

坂内 真里

1992年2月2日(日曜日)レア・シーブ研究会の発足記念会が東京高円寺の成吉思汗料理店で開かれました。前日の大雪、そして当日未明の震度5の地震で交通機関が大幅に乱れていたにもかかわらず、岩手・大阪・福岡から駆けつけた方もいて21名の会員が集まりました。初めての顔合わせでしたが、羊シンポ、フリースデー、あるいは講習会や講演会など「ひつじ」と名のつく集まりには必ず顔を出している人が多く、近況を伝え合う明るい声が会場に満ち、和やかな雰囲気に包まれていました。

まず、百瀬正香さんの開会のあいさつがありました。たった2センチ四方のセント・キルダ・ツイードに触れたのがきっかけで羊を巡る旅に立出し、羊の世界にのめり込んでいった経緯のわくわくするお話で始まりました。ウールを紡いで織ってはいても羊そのものへの関心は薄かった、それを変えた一片のツイードとは、一本一本の毛は剛いのに紡いで織られた布は適度な柔らかさをたたえた存在感のしっかりしたものだったとか。自分でもそんなツイードを再現してみようと、原料となった羊を探して野性の羊を追い求め、そのルーツを調べ、とうとうボーラレイ・シーブにゆきつくことができましたそうです。その頃には、想像もつかない不思議な豊かな羊の世界にすっかり魅了されていて、それがこの会の構想へとつながってきたわけです。家畜化されて8000年、飼育種としては1000種ともいわれ、これからも人間によって新しい羊種が生み出されようとする羊に対し、原種の羊をしっかり把握しておくことの重要性を強調しました。

次に会長の正田陽一先生が、日本の歴史の中にどのように羊や毛織物が登場してきたかをお話になりました。今後、日本の風土に合ったレア・シーブが保護・育成されることが日本の羊文化を豊かにしていくでしょうと結ばれました。初講義ともいえるお話が終わると、百瀬さんから手織りのマンクス・ロフトンのマフラーが贈られました。さっそく身に着けられた先生に「マンクスの歩く広告塔ですね。」との声がかかりました。

続いて会員の自己紹介。スピナー、羊飼い、牧場主、ニット業者、ウール業者、アパレル専攻の学生、何となく羊が好きの人など、それぞれの羊との関わりや思い入れが見えてくると同時に、意外な特技や秘められた能力もうかびあがり、様々な人が集まってきたことを改めて感じました。

また、出席できなかった北海道の武藤浩史さんからFAXで届いたメッセージや他の会員の方々から寄せられた葉書もひろうされました。



レア・シープ研究会の構想は、もう何年も前から百瀬さんの頭の中で描き続けられ、発足に向けて一步一步動き出していました。一昨年にはマックス・ロフタン20頭がイギリスから日本に到着し、北海道・岩手・静岡の四カ所の牧場で飼育と研究が始まっていますし、「スクレイピーに関する勉強会」「マックス・ロフタンの精液採取合宿」なども行われてきました。そして、今年から3年計画で「毛刈り・フリース扱いの講習会」がスタートします。今後、具体的な活動は次の6つの部門で成されます。①日本のレア・シープの育成 ②マックス・ロフタンの保護と飼育 ③ウールの研究と調査 ④書籍の翻訳 ⑤作品制作 ⑥レターズの編集（詳細は後述）会員の自由参加を募り、一人一人の声がかされることが望まれます。

当日会場では羊ショップが開店し、書籍・ポスター・絵はがき・会員の手編みによる椅子の靴下などが販売されました。また、今年初めて毛刈りされたマックス・ロフタンのフリース2点とそのマフラーがオークションにかけられて、それぞれ8000円、8000円、10100円で会員の手に渡りました。

羊と人間のより良い共存を考え、模索する場がここに誕生したことを祝って、羊料理のフルコースを味わいながら羊を巡る話をし、原毛に触れ、生きた羊こそ同席していませんでしたが羊づくしの時間を共有しました。



(後列左より) 四山礼子・豊岡均・岩瀬
堀内真里・大倉真実・羽田野明子・円藤泰久・下山里香子・小国徹
八巻邦次・吉田喜久子・片井信之・佐藤しおり・本出ますみ
高橋徳行・山本美紀・正田陽一・百瀬正香・本庄善雄（敬称略）

うぶ声をあげて

百瀬 正香

今日、このような会を皆さんと持てたこと本当に嬉しく思っております。それと同時にこれから私たちが担っていかなければならないことの多くあることに段々と気付かされているというのが現状です。

まず、このような会を持つにいったいきさつ、この会がどのような方向で進んでいくのが望ましいと、会として考えているかお話ししたいと思います。そして最後に皆さんのご賛同をいただけたらと思っております。

私はクラフトの世界の人間です。ですからはじめのうちは表現手段の一つの素材としてフリースを見ていたにすぎません。それが今思えば完全に羊たちの「オイデ」という手招きに乗せられてしまい、戦略にまんまとはまってしまったとしか思えないのですが、要するに彼らの魅力にとっぶりつかってしまったのです。

それは今話題となっている羊産業としての羊ではなく、羊と人間との歴史的関わりそれも王侯、貴族、庶民、小作人と全領域における人たちと羊との関わり、それと同時に現在、北海の小さな島々でその恐ろしい程の自然を上手に取り込んで生き続けている羊たちと贅肉をすべてそぎ落として生活している人間とのつながりの強さに魅かれていったのです。

また色々な羊を知るにつけ保護しなくては絶滅してしまう羊の存在も知りました。英国一ヶ所だけで維持してゆくにはあまりにも危険です。どうにか日本へ入れられないかと、純血維持問題を考えていた時、イギリス経由で知り合ったのが八巻先生でした。そうこうしているうちにマンクス・ロフトンを入れることができたのです。もちろん、このインパクトの強い羊を通して日本の一般の人たちの羊への関心と、羊産業への盛り上りも考えていました。更に羊の歴史を掘り下げていくと、そこには経済の流れも見えてきます。経済性を高めていかななくては羊の発展もあり得ないということも分ってきました。

この会を発足させるにあたって趣意文に民話、歴史の部分を強く打ち出しました。人類と羊との関わりの中に人間が人間として生きていくための示唆があると思ったからです。そして、それは羊の現実的な面を進めていくうえでの私たちのバックグラウンドなのだと思います。

それではそのグラントを背にして実際に何に取り組んでいったらよいのでしょうか。レア・シープ研究会としてどのような活動を進めていったらよいのでしょうか。ここに北海道で仲間2人と理想的な羊牧場を目指して活動している武藤さんからのメッセージがあります。(次ページへ)

—————武藤さんの文—————

レア・シープ、つまり稀少な羊は広義にとらえると様々な品種が揚げられますが、マンクス・ロフタンは世界的に見ても稀少であり、英国では保護品種として認められています。その保護増殖を日本で言うことは、当初奇妙に思いましたが、実は100年余りの日本の牧羊に大きな刺激を与えるのではないかと思ひ始めました。

現在日本の羊の8割強がサフォークですが、これは昭和42年に初めて輸入された極めて新しい品種です。それ以前はコリデールが全盛で、更に明治以降生産目的の種畜として輸入された羊たちを揚げてみると、サスガクン、スピッシュメリノ、コツォルド、シュロップシャー、ラングエリノ、コリデール、オーストラリアンメリノ、支那羊、蒙古羊、フェイロット、ロマフスキー、オストフリージャン、ポングスター、リンカーン、ロムニーマッシュ、ドセットホーン、ポールドセット、フィンッシュランドレース、ブラックベリー、ブルーラッドセット、ホワイトサフォーク、ペンデール、ポンドコリデール、そしてマンクスロフタン。この他にも観光目的、あるいは各時代の政策の下に10品種以上導入されていますが、その殆どが一過性の存在であり、気候風土への不適合、生産物のニーズの減少等の理由で消失してしまいました。日本めん羊の最盛期、100万頭を達成した立役者日本コリデール種は、現在良い種畜を探すのは困難です。世界に3000種といわれる羊は、8000年に及ぶ人との関わりの中、世界各地で改良を繰り返され作り出されてきたのです。しかし人間はその都合、つまり生産物の効率的取得のみを目的に改良を重ねたのではなく、各地の自然環境に適合し融合する羊を作り出すことを永遠の課題としてきたのです。この様にして考えると、20品種の羊をとっかえひっかえしながら消失させてきた日本の羊飼育は、未だにこの国に適した羊を見つけられずにいるのではないのでしょうか。羊毛羊肉は昭和30年代前半に既に完全自由化非課税品目となっており、これから国産のウールやラムが、国内自給を担うことが有り得ない現実の中で、今、羊を育てようとする仲間がいます。そしてそれぞれの独創的な考えによってそれぞれのイメージする羊があり、その選択種の広がり求められています。産業的に見ても、肉・羊毛・乳・皮革生産、観光目的、林間放牧や環境保全目的、草地の造成等、その活用方法は多岐に及び、目的ごとに必要とされる品種があります。南北3000km、亜熱帯から亜寒帯に属する日本列島において、各地に適合する品種は異なって当然です。現時点で最も生産ベースに乗っている肉生産ひとつを捉えてみても、繁殖率（多産性や繁殖季節の長短）、産肉性、肉質等、改良が必要でしょう。この様に考えると、私達が羊と親しみその恩恵に授かるには、日本のレアブリードを守っていかねばならないと思うのです。マンクスロフタンを守ることは、世界的に貴重な、原種に近い稀少品種を保護するというだけでなく、人間が作り変えてきた羊たちに対して責任を持ち、更に羊との付き合いを続けていくためにやらねばならない事だと思うのです。そして日本のレアブリードを守ることも、僅か100年の私達と羊の付き合いを深めていくために必要なことだと感じます。私の個人的解釈かもしれませんが、もし賛同者が居られるのなら研究会の仕事の一貫として、現在日本にいるレアブリードの種類と数、血統等を調査し、これらの品種の保護活動を提案したいと思います。日本の羊の歴史に新たな1ページを記すであろうレアブリード研究会の発足を心より喜び、微力ながら一羊飼いとしてお手伝いできる事があればと希望します。

羊飼い

武藤 浩史

私個人としても私たちに与えられた素晴らしい財産「マンクス・ロフタン」をはじめレア・シープを守り後世に残していくことは責任ある仕事だと考えます。

一度失なってしまったこのような貴重な財産は二度と再び創り出していくことが出来ないのですから。

日本におけるレア・シープの調査、保護活動。これは又一つの大きな問題だと思います。個人個人によって、その立場においてとらえ方、進め方がおのずと異なってくるところでもあるでしょう。この研究会を土俵にして大いに討論、検討できたらと考えます。

以上のようなことから会として

1. マンクス・ロフタンの純血維持
2. 日本にいるレア・シープの調査
3. ウールに関する研究
4. 通信、編集
5. 翻訳
6. 研究会費のための商品扱いや制作

以上6つの部門を考えております。

実際のところ動き出さないと皆目分かりませんが、一応このような方向性で進めていく——ということではよろしいでしょうか。（拍手）

皆さん御自分がどの部門に入りたいか決められて後で場所を変え各部門毎に話し合いをしたいと思っております。

原種といわれている羊を大きな視点でとらえ研究、保護し、日本においては北海道から九州、沖縄までそれぞれの風土気候にあった羊が飼育され、各地で益ある家畜だと認められるようになるように長い歳月をかけて皆の羊に対する熱い思いを地道に燃やし続けていける会にしたいと思います。

うぶ声をあげたこの会は今もはや皆のものです。

6 部門

マンクス・ロフトン・ブリーダーズ・グループ

の方向性

岩瀬（まかいの牧場）

マンクス・ロフトン・ブリーダーズ・グループは今まで通り、純血の保護を柱にそれぞれ飼育者が責任を持って管理し、又密に連絡を取り合う事を再確認しました。

マンクスの飼育者が常に抱えているスクレイピー問題について、新しい情報です。品川先生と御相談したところ、血液検査とりんぱ節の検査によって、スクレイピー罹患有無がいくらか分かるということで、私たちグループでは、りんぱ節外科の手術が必要なことから今回は見合わせることにし、血液検査をお願いすることになりました。4月以降に血液50ccを採取し凝固させないように先生の研究室に送ることになります。

送っていた北海道のマンクスの精液採取は河野さんの勤めている家畜改良センターに正式に依頼することになりました。

今の所メンバーは、実際にマンクスを飼育している人たち、片井（富士サファリー）、本庄、本間、まかいの牧場、百瀬と、研究調査サイド、工藤、河野、八巻です。

このグループはマンクスの純血を維持しながら、将来日本に合った種を作り出していくことを目指しています。参加したい人募集中。申し出て下さい。

日本のレア・シープ取り組み部門

豊岡 均

これまで日本にたくさんの品種の羊たちが輸入されてきましたが、畜産の歴史が浅く牧羊の地盤そのものさえ危ういのが我が国の現状です。そんな中で発足した研究会として、まずサフォーク以外の品種の現状を把握するため情報を収集し、資料作りを行います。その上でレア・シープ研究会のメンバーがその資料をどのように活用していくことができるか、更に日本のレア・シープそのものを、どのようにとらえていくのかを勉強していきたいと思います。それに関して皆さんのご意見、情報をお願い致します。

現在の所メンバーは、工藤悟、品川悠紀子、高橋徳行、武藤浩史に豊岡均です。ふるってこの部門に参加して下さい。

日本の羊毛の調査・研究部門

メンバーは現在のところ、八巻邦次、本出ますみ、山本実紀。

「日本の羊毛は、使えない」で紡ぎの人達の間であたりまえのように言われてきましたが、本当の所はどうなのでしょう。

日本のすべての羊を調べるわけにはいかないけれど、まずは出来ることから調べてみようということになりました。自然環境や飼育の仕方によって、羊毛はどう違ってくるのか。

今年は、試験年度として、データをとりたいという希望牧場から1フリース送ってもらい（送料牧場負担）、調査が終わったフリースは洗毛状態で、データと一緒に牧場へ返送します（返送料は研究会負担）。

調査項目は、繊維直径・毛番手・強度・弾力・歩留りなどを考えています。調査・研究は、東北大学の八巻先生の研究室で行われます。今年度の調査状態を検討して、できれば次年度から5年間データを重ねていこうと思います。

詳細については東北大学農学部家畜育種・八巻先生までお問い合わせ下さい。

Te l 022-272-4321 (内238)

5月頃から活動開始の予定です。

通信部門

小国 徹

年3回(4, 8, 12月)の発行を予定しています。内容については、楽しく読みやすい事を基本に、各活動部門の報告、専門分野の方々より研究報告、等をしてもらい読み終えた後、一瞬でも興奮を得られるようなものにしたいと思います。

情報誌が氾濫している今日、レターズは単なる情報交換の場に終始することなく、各人の問題解決のひとつのヒントになるよう、努力したいと思います。

以上のように編集室では考えていますが、最終的には会員の皆様の声で良いものをつくっていこう、と思っています。

現在のメンバーは、内山、大倉、小国、佐藤、羽田野、堀内です。

翻訳部門

内山 礼子

翻訳部門ではRBS Tの出版物を中心に皆様に紹介していく予定です。

今は、「羊飼いのカレンダー」に取り組んでいます。実際的な話しでなかなか面白そう。訳しながら少しずつ発表できるかもしれません。

地理的にバラバラなので、現在一度も集まっていませんが、必要に応じて英文レポートも訳していくつもりです。

現在のところメンバーは、井上緑さん、山本街子さん、内山ですが、私は初めての挑戦。途中で夜逃げするかもしれませんので、やってみようかなあと思う方、是非、お気軽に連絡して下さい。

研究費のための商品扱いと制作部門

まず手始めに、マンクスを知るきっかけに作品の“誌上ギャラリー”を催します。マンクス羊毛を入手した方は、作品の写真に感想等を添えてレターズに投稿して下さい。

扱い商品も充実させていきます。羊のポスターや書籍等、もう御覧になりましたか？新たに農文協で出版した「まるごと楽しむひつじ百科」未来開拓者共同会議編(1900円送料別)も扱うことになりました。執筆者には、レア・シープ研究会のメンバーが大勢います。どうぞ予約してください。(7月中旬までは ☎0439-55-4755 工藤、それ以降は ☎0467-47-5516 百瀬) 丈夫なハードウィック製の「椅子の靴下」も好評販売中です(一組1200円)通常の3倍以上も長持ちします。

又、レア・シープ研究会のTシャツ制作を考案中です。マンクス・ロフトン・シープをイラストで現したもので、一枚2300円位になりそうです。5月31日の神奈川フリースデーに間に合わせるつもりです。(担当 小国、堀内) この夏は、マンクス・シープを背中に皆さん動き廻して下さい。

現在メンバーは、工藤聖美、佐藤しおり、下山里香子、堀内真里、山本街子、吉田喜久子です。

茶色のかわいいいやつ

本庄義雄（岩手）

毎朝マイナス10度以下、窓に氷の花が咲いている畜舎に行き、「おはよう！」と声をかけると、オス2才のKeanは柵の上に足をかけて迎えてくれる。フスマをひとつかみ手にとって与えると、他のBolneyやMomoもそばに来て手から餌を食べる。水道をお湯で解かし給餌をし一頭一頭の様子をみる。メス3頭がうまく受胎しているだろうか気にしながら…今でこそ落ち着いた毎日を送っているが、この地に来てからの4ヶ月を振り返ると、実に様々なことがありました。

まず、11月初め来て1週間目に、夕方草地から畜舎に向かう途中で、Keanに走り出されて転びロープを離してしまい見失ってしまったことがありました。あわてて追いかけたものの、回りの暗さの中に同化してしまって見つけることができません。照度の高いサーチライトを2本買ってきて、妻と手分けして周囲の草地や土手や藪を4時間くらい捜し回りました。あの4本角が他人の家に現れたらさぞ驚くだろうとか、野犬にやられはしないか、何かあったらレアシーブのメンバーに申し訳ない等々、眠れない夜を過ごしました。翌朝早く、車で捜しに出ると、300メートル程離れた草地に松林を背に、でんと横たわってこちらに顔を向け彼がいたのです。ほっとするより前に、その風景にあった勇壮な姿にしばし見とれていました。メスを連れて行ってそれを囿に捕まえ一安心。（でも、引き戸は開けることを覚え常に施錠していなければならない）

Keanと3才のメスOyuki・2才のメスBolneyを、また、百瀬さんと交換した当才のオスMotoと2才のメスKirbyを組み合わせて12月15日まで同じ房に入れていました。（昨年出産しなかったのはKirbyのみ）Bolneyに対するKeanの攻撃が日増しに激しくなり、豊岡さんに問い合わせたところ、まかいの牧場でメスがオスに攻撃されて事故死したことを聞きその日からオスとメスを離しました。しかし、柵は何度も壊され、マンクスのもっている野性的な一面を知らされました。Bolneyは受胎していないかもしれません。

健康的には、来た当初環境も変わったせいと思われるが、3頭が発熱したことと、2度盗食して腹を壊したことがありました。幸い隣に獣医さんが住んでおられるので、治療してもらい2・3日で回復しています。固まった糞が出るので2月20日にはビチンを全部に投与しました。干し草以外の餌は近所の酪農家が自家配している繊維質の素材にフスマやヘイキューブのくず等を分けてくれるのでそれを与えています。この4ヶ月順調に増体しています。毛の方も毛足が6～7センチあり、状態もよいように思われます。

昨年、パンダのような模様で生まれたMomoは血統登録されませんでした。父親のKeanとつきあいながら改めてよく見ると彼の鼻の上は2センチ位白い毛が生えているのでした。

雪が解けるのは4月中旬、運動不足を心配しながら来月初めには子供たちとの出会いがあることを期待しつつ春を待っています。

マンクス・ロフトンのフリースを入手して

発足会でマンクス・ロフトンのフリースを落札された小野多寿子さんと三上千晶さんからお手紙をいただきました。お二人とも残念ながら当日は欠席でしたが、意外と安く落札できた驚き、そしてフリースを手にした喜びと責任も感じていらっしゃる様子です。

●三上千晶さんのお手紙より

とても大切に飼育されたようですね。ウールは思っていたよりずっと柔らかく臭いも弱く、何と言ってもこの美しく微妙に変化した亜麻色にしばらく見とれていました。紡ぎも織りも編みも我流で続けています。我流の長所は（短所は置いといて）縦横無尽、変幻自在、モグラたたきのように尽きない興味のままだけです。一つの問題が解決すると、直接関係のない他の事も同じように一歩進む不思議さがあります。羊自体のこと、飼育者の苦勞、フリースの質、作ること、使うこと、全てトータルに考えないと責任のなすりあいになりがちで、一歩も進めなくなる時があります。今、興味め的是、フリース以前の過程にあります。フィルムのコマ戻しのように、仕分け・毛刈り・羊の一日〜一年とか、見たり体験できたらと思います。

●小野多寿子さんのお手紙より

「どうしよう。全国の羊ファンの皆様の眼がこの羊毛に集中しているのに…。」
ちゃんと本で勉強し、大切に扱ってマフラーやセーターを作りたいと思っていますので、それまで暖か〜い眼で見守ってくださるようお願い致します。
今、洗毛された羊毛を手に入れて、カードのかけ方を少しずつ練習していますが、初めてなので、上手くいきません。でも、がんばる張り合いができたので嬉しいです。

マンクス・ロフトンのウールの魅力は、一つに茶の色合いの豊かさにあります。焦げ茶色・茶褐色・薄茶色・あるいは赤味がかった茶色や灰色がかった茶色・黒ずんだ茶色……それをミックスすることで更に豊富な色がえられます。それに適度の脂を含んだ弾力のある柔らかい毛質も人気があるようです。

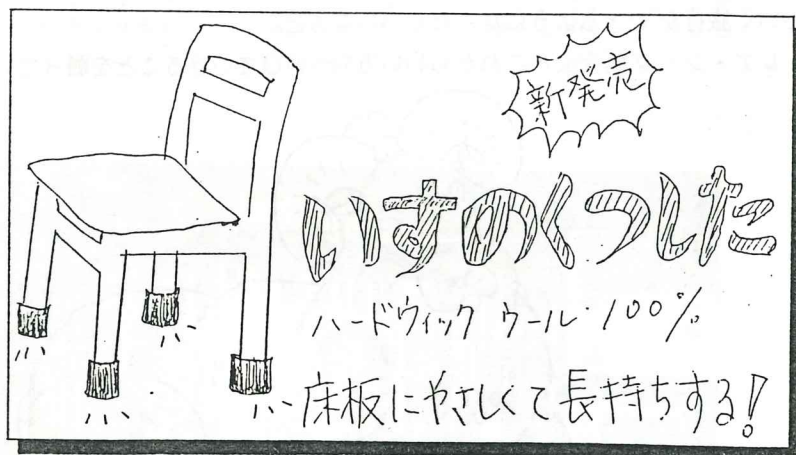
三上さん小野さん、それぞれの手が加わって どんな姿を現すか楽しみです。もし疑問や不安や迷いが出てきたら、どんどん質問してきてください。それに答えられる人材がレア・シーブ研究会にきつっているはずですから。

誌上ギャラリ



佐藤しおり（東京）

富士山が間近に見える「まかいの牧場」にいるマックス・ロフタン、ハロルドくんの毛を使ってベストと手袋を作りました。ベストの経糸は双糸、緯糸は経糸と同じ太さの紡毛単糸で、洋裁と同じように製図を引いてボード織りにしました。毛芯を入れ、裏地を付けて仕立て、大きな木製のボタン（猿沢恵子さん作）を付けました。マックス・ロフタンの毛は弾力があって空気を多く含むので、とても暖かく軽い仕上がりになりました。200gでベストとミトン2組ができました。



この「いすのくつした」は、ただものじゃありません。ハードウィック100%の硬いウールできつく、きつ〜く編んであるので非常に丈夫です。2年は充分もちます。市販の物はゴムなどでできていて、200〜300円と安いのですが、3カ月もつかどうか…。300円で3カ月と1200円で2年では、どっちが得でしょうか？ サイズは、大中小あます。1組1200円。3組以上は1組1000円となります。

さあ、あなたの家のいすにもウールのくつしたをはかせてあげましょう！

発足会に出席して

大倉真実（大阪）

当日、大阪から日帰りで参加しました。行きの新幹線の中では、どんな人が集まって、どんな会になるんだろうと不安と楽しみの入り交じった思いがありました。それに地震のため新幹線が遅れていて、間に合うかどうかとも心配でした。

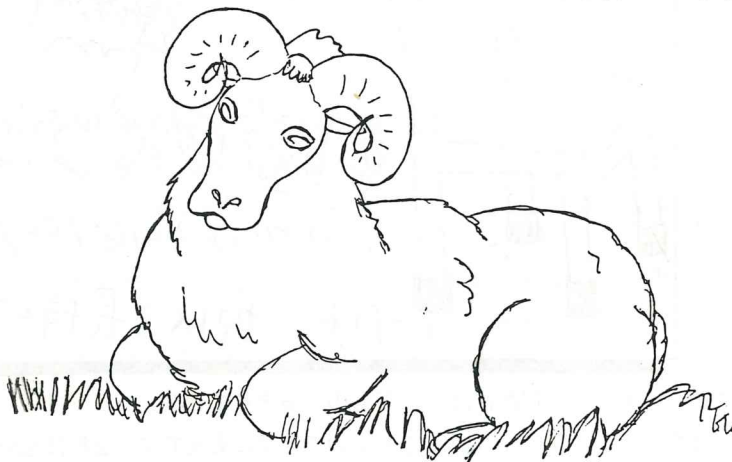
会場である杉並区の成吉思荘は、この会の発足の場にふさわしいジンギスカン料理の店でした。会が始まるまで、オークションにかけられる羊毛や羊関係の書物・製品などを説明を聞きながら見せてもらいました。そして、発足記念会が始まりました。

開会のあいさつ・組織づくりの説明などに続いて、会員の自己紹介へと移っていきました。ある程度予想はしていたのですが、紡ぎ関係や羊飼育関係の方たちが多いことを改めて知ることとなりました。そして、皆さんが羊に関してかなり意欲的な意志を持たれていることがわかりました。私のような半端者がこの場に居てもいいのかなあと思ったりして自分の番の時はほとんど何も言えずに終わってしまいました。その後、羊料理が運ばれる頃には気持ちに余裕ができて、いろいろ羊に関する話や会計報告を伺いながら、焼肉やシューマイなどおいしくいただきました。

二次会は、東高円寺駅近くの喫茶店で行われました。部門ごとに分かれてこれからの事を話し合いました。私は帰りの新幹線の都合で最後までは残れませんでした。

発足会に参加して、レア・シープ研究会にどんな人がいて、どんな会になりそうなのかほんの少しでも知ることができたと思います。皆、羊に興味があって、これからこの会を作り上げていこうという共通の意気込みを感じました。私は羊に興味があるというだけで全くの素人ですが、これから羊のことをいろいろ知っていきたいと思っています。また、こんな夢もわいてきました。レア・シープ研究会でイギリスやニュージーランドへ羊を観に行く旅行ができるようになったらいいなあ。

レア・シープ研究会がこれからのいい方向へ伸びていけることを願っています。



▲大倉さんが描いた羊の絵

会員の自己紹介

◆堀内 真里

旅行や山歩きと同じように趣味として始めた織物ですが、ウールを紡ぎ出してからそのおもしろさ、むつかしさにすっかりとりつかれてしまいました。百瀬先生の工房に通う中で、羊の世界をかい間見る機会にも恵まれ、指先に触れるウールから生きた羊の姿・形、生まれ育った風土にも興味をもつようになりました。羊のことを追いかけると地球規模の問題にまでつながりそうな深遠な羊の世界について、これからいろいろな方からお話を伺えるのを楽しみにしています。

本業は小学生向けの月刊雑誌の編集に関する仕事ですので、レターズの誌面構成でも何かできるのではと思います。どうぞよろしくお願いします。

(写真-左)

◆小國 徹

生まれは宮城の川崎町。見れば見る程色男。誰が名付けた訳ではないが、宮城の長嶋“小国君”。

今は鶴見に住んでいる。木造2階の豪華マンション。床屋のおやじが俺のことを言っている。鶴見の加山雄三“小国君”てね。

仕事は動物園の飼育係。会えば会う程おもしろい奴。横浜市民が俺のこと言っている。何てカッコいい人だろう“小国君”てね。

レア・シープ研究会が発足したよ、会員はみんな美男、美女、こんな本当のこともたまには言えるんだ。それがこの俺“小国君”

〈小国君のテーマより〉

最近、小さいことでも疑問に思ったことをとことん調べていく過程が面白く癖になりつつあります。みなさんと、何かテーマを持って、とことん調べていければ…と、思っています。

(写真-中央)

◆内山 礼子

私、内山礼子は1966年11月7日に横浜で生まれ、その後仙台を経て幼稚園の時に札幌へ。中・高と北海道では指折りのオ嬢サマ学校へ進み、その後、下々の生活が見たくなり帯広畜産大学へ進みました。ここから私の人生は大きく狂ったのです。…。19の時に羊との恋に落ち、21でNew Zealandへ愛の逃避行。しかし立場の違う二人に世間の風は冷たく、再会を固く誓い合い、一年足らずで帰国を止むなくされる。しばらくは南の空を眺めては涙する日々が続くが、やがて彼のfleeceを作品にしようと、無謀にもたった一人で上京し、織りを始める。電車に乗っては蕁麻疹に悩まされ、忙しすぎては顔が痙攣を起こし、それでも沢山の人々と出会い結構楽しかったのだ。やがて2年たち、ちょっぴり大人になった今、向う見ずな若い恋に終止符を打ち、彼とはちょっぴりキョリを置いて、生涯の友でいようと思いはじめ。元来私のケツは軽いのだ。

やりたいことがありすぎて困っています。口ばかりうるさい私ですが、どうぞ宜しくお願いいたします。

(写真-右)



マンクス・ロフタンの基準と 仲間に加わったマン島の羊

百瀬 正香

先日レア・ブリード・サバイバル・トラスト（稀少家畜保護団体、以後R B S Tと表記）からフロック・ブック（純血登録の本）が送られてきました。日本のマンクスもフロック名NIPPONとして登録されています。日本のマンクス・ロフタン協会がしっかり確立するまで、あるいは日本の中で、日本のレア・シープの登録制度が出来るまで、この日本のマンクス・ロフタンは純血を維持するためにも英国のR B S Tに登録させてもらうということが輸入時から決められていたのです。いつまでも英国に依存していないで早く独立したいものです。それは、私たちのレア・シープ研究会の評価いかんにかかっているのかもしれませんが。

そのフロック・ブックにマンクス・ロフタン純血種をどのように定義づけているか書かれてありましたので、ここにお知らせいたします。

マンクス・ロフタンは北部ヨーロッパの短尾種に関係をもつ小さな羊です。成熟したメスで体重約40 Kg、骨は細く熟成が大変遅い種です。時には肩胛骨が立派に突出しているものもいます。けれども通常は、背中の部分より臀部の方が盛り上っています。尾は膝より長くなることはありません。

ウールはダークブラウンですが、日光にさらされ日焼けして白っぽくなっていることもあります。ソフトで半光沢でステーブルは8～12 cmで、ブラッドフォード番手で44～48番手です。

顔と足は濃い茶色です。体の一ヶ所にでも白い部分が現われた羊は純血として登録することが出来ません。鼻は真っすぐで頭の大きさは中位です。一般に両性共2本、時には4本の角を持っています。メスには時々角のないのが現われますが、これはあまり好まれません。概してメスの角は小さく、オスは強く大きいものです。

けれどもその角が顔や頭の方へ入り込むようではいけませんし、草を食む邪魔になるようでもいけません。

そして、このフロック・ブックには例年にない大きなニュースが発表されていたのです。マン島でマンクス・ロフタンを飼っている博物館やナショナル・トラストがR B S Tの純血登録に同意したというのです。この朗報は皆の長い歳月の努力のたまものです。マンクス・ロフタンのふるさとと厳密に言えば英国の自治島であるマン島です。そこ以外ではほとんど飼われていなかったのですが、それが1970年代に絶滅近くなった時、災害、病気などの危険性を考え英国本島で種の確立を計りました。

けれどもそれはマン島ブリーダーズの同意が得られず、不幸なことに独自の歩みをしてきたのです。

私が初めてマン島を訪れた時は1985年でした。マン島と英国間の微妙な関係など知らなかった私はマン島のマンクス・ロフタンが英国で見たそれとあまりに違う姿をしているのにびっくりして矢継ぎ早の質問をしたのです。特に著しく違うのはその角でした。

マンクス・ロフタンの角



英国の角

- ・ 2本または4本の角を持つ
- ・ 無角でも有角の遺伝子を持っていると考えて純血として認める



マン島の角

- ・ 4本の角を持っている

彼らは「英国は他の血が入ったからさ。マン島のマンクス・ロフタンだけが純粋なのだ。」と言いました。それから1988年、日本にマンクス・ロフタンを入れる話が出てきた時、マン島の羊も入れたいと私はRBS Tに申し出ましたが、却下されました。純血として登録されていないというのです。1989年、英国のマンクス・ロフタン・ブリーダーズ・グループの人たちが、マン島を訪ずれ、そこで双方合同の集まりが初めてもたれました。1990年には、マン島におけるマンクス・ロフタンの歴史の本が英国側の学者から出版されました。版元はRBS Tです。そして、1991年同一種として認め合ったのです。マン島の羊と英国の羊との間で、どんな角のカーブをした子羊が生まれてくるのでしょうか。

この合同を一つの機会として今、マンクス・ロフタン・ブリーダーズ・グループは5年計画でマンクス・ロフタンの全調査を来年度から開始しようとしています。詳しい打ち合わせ会は7月に英国で行なわれます。

ウールに関しては1994年のカラードシープ国際会議に向けて一足早く去年から始められました。私たち日本のマンクスグループも出来るならその調査に参加したいと思っていしたが、一週間程前に英国からマンクス・ロフタン・ブリーダーズ・グループのニュースレターが送られてきました。それによるとウールの調査は予想以上の反響でもうすでに又切られたとの事です。

又、日本からの純血登録があったことは、この種を世界的レベルで保護していく真の基盤が出来たことで喜ばしいことであり、我々ブリーダーズの励みでもある。いつの日にか完全な種として英国へリターンしてくるだろうか?!と紹介されており、ついでに何故日本へ輸出されたのか、日本での飼育はどうか等英国ブリーダーズからの質問への答として私のレポートも記載されています。このレポートによって彼らがどのように考えるか今度、彼らに会った時、その反応を心配しながら楽しみにしています。

シェアリング、クラッシング講習会報告

百瀬 正香

- 主催 レア・シープ研究会
- 協力 日本綿羊協会
- 月日 1992年3月16～17日 2日間
- 場所 静岡県富士宮市まかいの牧場
- 講師 国政二郎、工藤 悟、本出ますみ、内山礼子（アシタウ）
- 参加者 13名（見学者も含む）教育、農業組合、牧場、動物園の各関係者

毛刈りをするにはあまりにも寒く、終日小雨が降りしきり、早朝には雪も舞う2日間でした。人間はセーターを着、ヤッケを着込み、羊は毛を刈り取られる少々妙な講習会でしたが、そんなことに思いも及ばず必死に毛を刈り、羊毛を仕分けし、ノートをとっていました。2日目ともなるとその熱心さに親しみがプラスされ、羊を相手に四苦八苦している人を見つけてはお互いに知恵を出し合い、一つのことに挑戦しているという思いが伝わってきます。

刈り終わったフリースを前にすると勝手が分からないのか途方にくれています。本出さんの熱心さに段々と引き込まれ不器用な手つきでウールを分けはじめます。羊を飼育している人対象のこの会は、ともすれば毛刈りの方により興味がひかれ、ウールにとまどいを感じたようですが、反面、自分で糸を紡いで織っている人や紡いだことのある人も2人いて心強いものでした。

「羊の品種によるウールの違い」ということまで話すことができたことから、毛刈りと同等とまでいかななくても、ウールに対していくらか具体的イメージを持ってもらえたのではないのでしょうか。2日間とも十分な話し合いの時を持つことができ、質問や意見の交換が活発になされました。講師の人たちの経験豊かなアドバイスや互いの意見は、これからそれぞれの場に戻ってから何らかの助けになってくれることを願っています。

もう一つ、この会が気持ちよいものになったことは、まかいの牧場のお蔭と感謝しております。同じレア・シープ研究会のメンバーとはいえ、宿泊、食事すべて研修という配慮をして下さり、毛刈り用の羊や設備をおしみなく提供して下さいました。特に雨の中、羊をぬらさないよう移動させることは大変なことですが、岩瀬さんをはじめスタッフの人たちが気持ちよく働いて下さいました。

今回、レア・シープ研究会として初めて部外へ呼びかけた会でしたし、この会をこれから2年は続けていきたいという思いの強い会でした。それだけに内容を充実させ、しっかり皆に理解してもらえるような会にしたいと考えてきました。その成果が早急に出るとも思えません。2年目3年目とどこまでこのような講習会を必要としてくれるのか皆の判断とその時の時世にもよると思います。地道に歩んでいきたいものです。

3月27日には神奈川県立大野山牧場で、牧場職員、農業指導員対象の毛刈り、羊毛仕分けの講習会を依頼されています。神奈川県は羊飼育にかなり力を入れている所ですし、指導的立場の人たちに講習することは意義あることだと思います。北海道でも武藤さんを中心に、若手の人たちでハッピーな会を企画しています。色々な立場の人たちがこのような機会を生かすことにより、羊を大きくとらえた何かが自然にうまれてくるかもしれません。そして、私個人としてそのような努力をしたいと思っています。

会 計 報 告

収入	講習料 (27,000 X 9)	243,000
	見学科 (10,000 X 1)	10,000
		計253,000

※まかいの牧場からの受講者の講習料は会場費、羊使用料等を差し引いて0としました。

支出	講師 (工藤、本出) の謝礼 (45,000 X 2)	90,000
	アシスタント (内山) の謝礼	20,000
	交通費 (25,000 X 1・15,000 X 1・12,000 X 1)	52,000
	宿泊費、朝食代 (3人分)	14,800
		計176,800

※国政さんは協力・日本緬羊協会として参加していただきました。

講習会運営経費	受講者用テキスト	5,760
	切手 (62 X 99)	6,138
	コピー	1,960
	封筒	698
	電話代	3,000
	マジックペン	772
	お茶菓子	2,150
	宿泊費 (スタッフ2人)	10,700
	交通費 (")	8,000
		計39,178

$$253,000 - (176,800 + 39,178) = 37,022$$

インフォメーション

ゴールデンウィークはひつじづくし!

★その① Enjoy Wool & Learn Sheep

毛刈りと羊毛の取り扱い方(スカーティング、ソーティング)の講習会です。スピナーと羊飼いが一緒に技術の習得をしながら相互交歓できる場を作りたいと思います。

(2日コース)

(1日コース)

○月日 1992年4月28~29日

5月1日

○場所 北海道白糠町茶路めん羊牧場

北海道滝川市道立滝川試験場

○講師 本出ますみ 武藤浩史 田口裕一 下田都由

★その② フリースパーティー in ブラウニーレーン

今春刈り取ったばかりのフリースを展示、販売します。見て、触れて、納得して、あなたのフリースを手に入れてください。

○月日 5月5日 午前10時~午後3時

○場所 北海道白糠町茶路めん羊牧場

★フリースとラム肉の販売

平成4年フリースとオーナー制によるラム肉を販売します。価格表及び申し込み用紙をご希望の方はお知らせください。

〒088-04 北海道白糠町茶路88-1 茶路めん羊牧場 武藤浩史 ☎01547-2-4623

子羊を丸ごと、あるいは生体で売れる人

フレッシュミート提供予定のある時、ある人、申し出て下さい。

私のイスラム教の友達が子羊を求めています。祭事、行事に必ず必要なのだそうです。イスラム教徒が全国規模のリストをほしがっています。提供できる人、私のところまで。

百瀬 正香(7月15日以後より)

発足会出欠席のはがきより

氏名 井上 緑

感想・近況

Fだとはなくイギリスは好きだし羊が好きだし
編物も好きだし おもしろいかな... 程度の気持ち
で入会して おそらく一番 溢せばいいところ
位置する(?) 私ですか 意欲的にさっさといろいろ
取り組んでおられる皆様の活動状況を読んで
私たちから視点を 変えたい気が します。(4月か
5月か) **外国の羊本の翻訳!** みたいな
私 ワークロードは できると思うので。 というか

フリースオークション価格 ぜひやってみたい!!!

これ シアーズ研究会で扱っている羊のポスターや
ブーガル、英国の羊の本など、 実際 手にとってみたい
... という場合は 2/2に上京し際にでも 種山原
にのどきに行けば 買いでしょうが? 私はいつも
百貨店の英国羊のときみかける 羊のポスターが ほしくて
手取りませんが... せめては 別から...

氏名 日向野 千穂

感想・近況

経過報告書 大変興味深く拝見
しました。 羊のこと、羊に由来からゆき
せいで 勉強したいと思いい入会させていた
ました。 やり方、私と 違う 感覚です。
皆様の 羊の 専門の方は かなりの 様で、私
より 素人か。 入会手続き して して
申しあげたく 思っています。

氏名 岡 藤 泰 久

感想・近況

1月12日に大分県久住町(標高
950m)より サブオク 28頭 阿蘇小国町(標高
7650m) 導入しました。早速その日 子羊が
生まれました。 母羊飼ひの仲間 に入りました。

氏名 楠本 雅弘

感想・近況

大変詳しく、また、ちと ちと ちと
報告をお送りいただき、事務局の努力と
熱意に敬意を表します。 できるだけの協力
をしたいと思います。

氏名 下山 団 香子

感想・近況

シアーズ研究会の 着実な活動と 1977年
あらゆる面々。 本当に必要なことなど
報告書を読んで 感心です。 皆の力かどの
に 生かすのか、 楽しみとあり、 自己の不安
? あります... 発足会を 楽しみに しています!

氏名 本出 ますみ

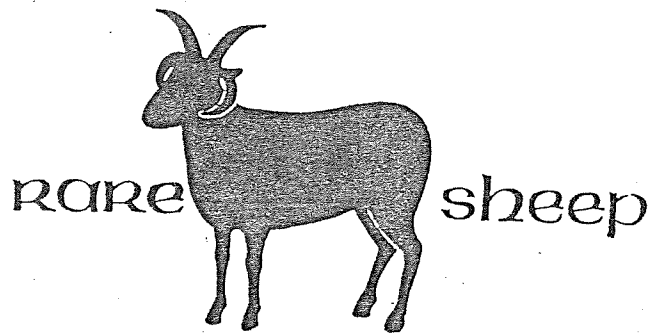
感想・近況

「11サツと 羊の」 発足会
おもしろい こと いろいろ いろいろ
です。 モモセさん 大へん たい
は...
今年 とも とも とも とも とも

氏名 三 森 晶子

感想・近況

羊が大好き、羊に興味がある、と
いうわけで、入会しました。
しばらくは、レターズと 自己の手仕
事(手紙、裁縫、編物)を通して「羊」を
学びたいと思います。



1992年4月発行 第1号 (年3回発行)

編集・発行●レア・シープ研究会 百瀬正香

〒247 神奈川県鎌倉市大船6-10-58

☎0467-47-5516